

に取り組んでいる。8月からすでに大森地区で始めており、社会福祉士の中村一孝代表(45)は「区内全域に広めたい」と話す。来年度は区の助成も受け、区内全域で拡大を目指す。(松村裕子)

大田区の社会福祉士や医師ら高齢者医療、福祉の専門職による「大田北高齢者見守りネットワークをつくる会」が、緊急時に高齢者の身元を確認できる「SOSキーホルダー登録システム」の普及

# キーホルダーで

# 高齢者見守り



①システムの区内全域への拡大を目指す中村代表(左)と沢登事務局長(右)大田区で  
②番号が入ったキーホルダー

キーホルダーにはそれぞれの登録番号と、地域住民の医療と福祉の窓口になる「区地域包括支援センター」の電話番号を記載。六十五歳以上が対象で、希望者は住居地ごとに指定された地元のセンターで登録し、かぎやつえに付けて外出時に持ち歩く。迷子や事故で身元が分からない場合も、センターがキーホルダー

の番号から身元や連絡先を捜す。登録時に病歴や内服薬、担当のケアマネジャーも記載し、病院搬送時は治療に役立つ。

大森地区の六つのセンターでは、既に約六百五十人が登録。九月には認知症の

ために自宅に帰れず幹線道路にいた女性が、キーホルダーを見た通行車の連絡で身元が分かるなど、これまで四件、迷子の認知症高齢者の身元判明につながった。

システムの開発は、一般

向けの医療セミナーで講師を務めたソーシャルワーカーから、事故で救急搬送された高齢者の身元が分からなくて困ると聞いたのがきっかけ。区内の大病院や警察、消防にもシステムを知ってもらおうよう努めている。

区内全域での展開に向け、会の名称は来春、「おおた高齢者見守りネットワーク」に改称。来年度中のNPO法人化を目指す。

包括支援センターの地域責任者でもある沢登久雄事務局長(右)は「身元確認だけでなく、その後の支援にもつなげられる。元気な高齢者にも相談できるセンターを知るきっかけになる」と話し、登録を促している。



大田の団体普及を目指す **身元確認の番号など記載**